



風水害に備えよう！

閩防災危機管理課（☎内線2270）

風水害から自分の身を守るためには、「正しい知識」、「準備」、「情報収集」が大切です。自宅やよく訪れる場所周辺の災害リスクを再確認し、日頃から避難方法などを考えておきましょう。

風水害を知ろう

市内でも過去に梅雨前線や台風による浸水被害や、竜巻による被害が発生しています。降雨量が1時間に20ミリ以上、または降り始めから100ミリ以上になった場合、十分に注意しましょう。

土砂災害

大雨や地震などを原因として山や崖などが崩れ、その土砂により引き起こされる災害です。市内で想定される土砂災害は「急傾斜地の崩壊」と「土石流」です。

◆急傾斜地の崩壊

雨や地震の影響で、斜面が急激に崩れ落ちる現象です。突然発生することから死傷者の割合も高くなります。

◆土石流

大雨などにより、山の土砂などが、水と一緒に流れ下る現象です。急激な流れにより家屋や道路が破壊されることがあります。

洪水災害

大雨などを原因として、河川や下水道などの水量が著しく増加することにより引き起こされる災害です。市街地では雨水の排水機能が追いつかなくなり、家屋への浸水など大きな被害をもたらします。



避難行動を確認しよう

日頃から、自宅周辺や生活圏内の危険箇所・避難場所などを確認しましょう。また、災害のときに自分が取るべき行動を整理しておくことで、いざというときに役立ちます。

ハザードマップを活用しよう

ハザードマップには、被害想定エリアや指定避難場所一覧などに加え、災害の備えに役立つ情報が載っています。避難計画の作成など、事前の対策をしておきましょう。



洪水
ハザードマップ



内水
ハザードマップ



土砂災害
ハザードマップ

土浦市のハザードマップの内容は
こちらからご覧ください▶



マイ・タイムラインを作ろう

マイ・タイムラインは、風水害に備え、警戒レベルごとに取りべき行動や避難経路を事前に整理する個人の避難行動計画表です。災害時に逃げ遅れないように、ぜひ作成しましょう。

【作成例】台風のとき

警戒レベル	気象状況	行動計画
1	大雨の 数日～1日前	天気予報の確認 家族の予定を確認
2	大雨の 半日前	非常持ち出し品の準備
3 高齢者等 避難	大雨の 数時間前	避難先、移動手段の確認 避難しやすい服に着替える
4 避難指示		〇〇小学校へ避難
5 緊急安全 確保	数十年に 一度の大雨	命の危険、直ちに安全確保



非常持ち出し品を準備しよう

避難するときに必要な持ち出し品は最低3日分です。年齢や性別によって持ち出し品が異なるので、自分に必要なものを備えておきましょう。



非常用持ち出し品(例)

共通の備え

- | | |
|--|---|
| ☐ 飲料水・食品 | ☐ 応急セット・常備薬 |
| ☐ 衣類・下着・タオル | ☐ ウェットティッシュ |
| ☐ 懐中電灯・ラジオ | ☐ 消毒用アルコール |
| ☐ 貴重品
(現金、保険証など) | ☐ マスク ☐ 歯ブラシ |
| | ☐ 体温計 ☐ 雨具 など |

女性の備え

- ☐ 生理用品
☐ 防犯ブザー など
- #### 高齢者の備え
- ☐ 大人用紙パンツ
☐ 杖・補聴器 など

乳幼児の備え

- ☐ ミルク(缶タイプ)
☐ おむつ・お尻ふき
☐ 母子健康手帳
☐ 離乳食 など



情報の入手方法を知っておこう

各種防災情報は
こちら▶



事前登録が必要なものもあります。いざというときに慌てないように、使い方を確認しておきましょう。

緊急時に受け取る

◎防災行政無線

防災の緊急を要する情報を確認

◎防災行政無線テレフォンサービス

放送内容を電話で確認 ☎0120-826-113

◎防災行政無線放送アプリ「コスモキャスト」

放送内容をスマートフォンで確認

◎土浦市公式LINE

避難の呼びかけや災害関連情報を確認

緊急時に調べる

◎土浦市公式ホームページ

災害情報や防災行政無線の内容を発信

◎VACAN Maps

避難所の写真や開設情報、混雑状況などを発信

◎キキクル(危険度分布)

土砂災害や洪水などの災害発生の危険度を発信

◎茨城県防災・危機管理ポータルサイト

気象庁の防災気象情報や土浦市の災害情報を発信

災害支援の 現場から

本市消防職員がミャンマー地震の救援活動に参加しました

3月28日に発生したミャンマー地震の被災者支援のため、救急救命士の森田消防士長が国際緊急援助隊(JDR)の一員として現地に派遣されました。

森田消防士長は、東日本大震災での経験や、大学時代の恩師がJDRの一員として派遣された姿を見て、「自分もJDRで被災者の役に立ちたい」と志してきました。

現地では、診療テントの維持管理やカルテの管理、医療機関との連携、感染症対策などを担当しました。

15日間の活動を終え、「気温が40度を超える日もあり、想像以上で大変でしたが、被災者の不安をなくしてあげたいという気持ちで活動しました。1日でも早い復興と平和が訪れることを願っています」と振り返りました。



森田 大地消防士長

市民の皆さんへのメッセージ

今回の活動では、大変貴重な経験をする事ができました。この経験を今後の救急業務に活かしていきます。これから、水害が発生しやすい季節になります。避難所での熱中症のリスクも考慮して、日頃から必要な備えをしてください。